

海跡、名付而有毛、彼山之堤、有海曾、不盡河跡、人乃渡毛、其山之水、乃當鳥、日本之山跡國乃鎮、十方座神可聞、寶十方成、有山可聞駿河有、不盡能高峯者、雖見不飽香聞、

反歌

不盡嶺爾零置雪者六月十五日消者其夜布里家利、

右一首高橋連蟲麻呂之歌中出焉以類載之、

〔萬葉集抄三〕富士の山には、雪のふりつもりてあるが、六月十五日にその雪のきえて、子の時よ

りしもには、又ふりかはると、駿河風土記に見えたりといへり、

〔萬葉集十束歌十四〕安麻乃波良、不自能之婆夜麻、已能久禮能等伎由都利奈波、阿波受可母安良牟、

不盡能禰乃伊夜等保奈我伎、夜麻治乎毛、伊母我理登倍婆氣爾餘婆受吉奴、

可須美爲流、布時能夜麻備爾和我伎奈婆、伊豆知武吉底加伊毛我奈氣可牟、

佐奴良久波多麻乃緒婆可里、古布良久波、布自能多可禰乃奈流佐波能其登、

或本歌曰、麻可奈思美、奴良久波思家良久奈良久波、伊豆能多可禰能奈流佐波奈須興、

一本歌曰、阿敵良久波多麻能乎思家也、古布良久波、布自乃多可禰爾、布流由伎奈須毛、

右五首駿河國歌(首略)

〔伊勢物語上〕むかしをとこありけり、○中あづまのかたにすむべきくにもとめにとてゆきけり、

略○中ふじのやまを見れば、さ月のつごもりに雪いとしろうふれり、

時しらぬ山はふじのねいつとてかかのこまだらに雪のふるらん、その山はこ、にたとへば、ひえの山をはたちばかりかさねあげたらんほどして、なりはしほじりのやうになんありける、

〔金槐和歌集冬〕冬歌

見渡せば雲ゐるかに雪白し富士の高根の曙の空